

コミュニケーションロボで孤独を解消

政府は5年後にロボット市場を、現在の4倍の2兆4000億円に引き上げる新戦略を策定した。ロボットは医療用や接客・介護、災害現場での活用が期待されている。そんな中で、病気で学校に通えない子供や、単身の高齢者などの問題をコミュニケーションロボットで解消しようという試みが注目されている。「OriHime（オリヒメ）」を開発したロボットベンチャーのオリィ研究所の吉藤健太郎社長兼最高責任者（CEO）は「会いたい人に来て、行きたいところに行ける社会をつくりたい」と語っている。

——オリヒメとはどんなロボットか

「自分の分身として離れた家族や友人の元へ行き、パソコンや携帯電話で遠隔操作する。体高約27センチでコンパクトだが、目、耳、口があるので、操作する人は自分がその場にいるような感覚で、相手の姿を見て音を聞



き、会話を楽しむことができる。うなずく、首を振る、手をたたくという動作によって感情を表現することもできる。このため相手にとっては、その人が本当にそこにいるような重厚感を得られる」

——開発のきっかけは

「ものづくりが好きで高校生のころ、模型を造るときに絶対に傾かない車輪車いすを開発して、国際学生科学技術フェアで3位になった。それを機に障害

者や高齢者の悩みを相談されるようになる。すると身体的なことより、孤独や寂しさからストレスを抱えている人が多いことを知った。実は私は小学校から中学校にかけて不登校になり、親と別居で3年間自宅に引きこもったことがある。自分が苦しんだ経験から、孤独を解消するためのロボットをつくらうと思った」

——これまでの導入例は

「福祉、教育現場を中心に試

作タイプが約30台導入されている。急性白血病で闘病中に入っていた女性の自宅にオリヒメを置いたときは、子供たちから「お母さんがいるみたいだ」と言われた。学校から帰宅すると母親が「お帰り」と声を掛ける。子供は「ただいま」と返事をして、自然と親子の会話が生まれる。認知症の高齢者がオリヒメを通じて家族や結婚式に参加したこともある」

——7月から生産機のレンタルを始める

「ようやく初の生産機を開発

することができたが、月額5万円になってしまうので、個人は手が出しづらい。そこでメンバーを募り、CSR（企業の社会的責任）の一環として費用を負担してもらい、必要人に貸与することを考えている。すでに関心を示している法人と話を進めている。初年度は300台の取組を見込んでいるが、さらにコストダウンを図るとともにサポートを充実させることで、2年日には1000台の出荷を目指す」

（佐竹一秀）

「ようやく初の生産機を開発

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

オリィ研究所 吉藤 健太郎CEO

作タイプが約30台導入されている。急性白血病で闘病中に入っていた女性の自宅にオリヒメを置いたときは、子供たちから「お母さんがいるみたいだ」と言われた。学校から帰宅すると母親が「お帰り」と声を掛ける。子供は「ただいま」と返事をして、自然と親子の会話が生まれる。認知症の高齢者がオリヒメを通じて家族や結婚式に参加したこともある」

——7月から生産機のレンタルを始める

「ようやく初の生産機を開発

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

（佐竹一秀）

■会社概要
▷本社—東京都武蔵野市西久保1-3-11
▷設立—2012年9月
▷資本金—2010万円
▷従業員—7人
▷事業内容—コミュニケーション支援ロボットの企画・製造・販売